

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 5 月 29 日現在

機関番号：12201

研究種目：基盤研究(A)

研究期間：2010～2014

課題番号：22251007

研究課題名(和文) 近現代中国農村における環境ガバナンスと伝統社会に関する史的研究

研究課題名(英文) An Historical Study of Environmental Governance and Traditional Society in Modern Chinese Villages.

研究代表者

内山 雅生 (UCHIYAMA, Masao)

宇都宮大学・国際学部・教授

研究者番号：30151905

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 35,600,000円

研究成果の概要(和文)：従来の環境ガバナンスに関する研究は、都市における工業部門を中心に取り上げたものが多かった。本研究では、中国農村社会における環境問題を伝統社会との関係から考察した。特に中心調査地を山西省の中部平遥県道備村として、共同研究者の山西大学中国社会史研究センターの協力を得て現地調査を行った。調査は村民へのインタビューとともに、「村落档案」と呼ばれる村の公文書および村民の個人記録を収集した。さらに収集資料に関するリストを作成し、その一部を撮影し、メンバーの共有資料とした。資料分析に基づいて中国人研究者を交えて、シンポジウムおよび公開研究会を開催し、研究成果の一部を公表した。

研究成果の概要(英文)：In contrast to most of the existing literature on environmental governance, which usually discusses China's urban industrial sector, this project focused on the environmental problems experienced in modern Chinese villages, particularly its effects on traditional Chinese society. Choosing Daobei village, Pingyao county in the central part of Shanxi province as the main research location, we conducted fieldwork in cooperation and collaboration with the Research Center for Chinese Social History at Shanxi University. This fieldwork consisted of interviews with villagers and the collection of official documents and papers in relation to individual villagers, which is referred to as the "village archive." We also compiled a list and photo archive of collected materials in order to ensure that the data could be shared and accessed by the project members. In addition, by holding a symposium and an open seminar with Chinese scholars, we were able to present our findings to the public.

研究分野：人文学

キーワード：中国近現代史 環境ガバナンス 水利灌漑 農業の集団化 共同体 共同性 山西省 村落档案

1. 研究開始当初の背景

本研究メンバーの大半は、三谷孝一橋大学名誉教授(故人)を研究代表者とする科学研究費補助金交付研究「中国内陸地域における農村変革の歴史的研究」に2005年から2007年まで参加していた。その成果は、三谷孝編『中国内陸における農村変革と地域社会 山西省臨汾市近郊農村の変容』(御茶の水書房、2011年)にまとめた。その間に、山西師範大学の協力を得たが、本研究では山西大学中国社会史研究センターの協力を得て、本調査の主要調査地となる山西省平遥県道備村で予備調査を行っていた。

2. 研究の目的

本研究は、20世紀中国農村社会に表出した政治的経済的変動を、水利灌漑・土壌・森林資源に対する環境ガバナンスの実態と、農民による伝統社会で生活した経験と知恵による問題解決のための対応に焦点をあてて、中国各地農村の地域差を考慮しながら、歴史的に検討するものである。その際に、中国に残された戦前戦中期の日本の研究機関による「日本語調査資料」と、近年その存在が注目されている主として1950年代以降の村レベルの「中国語文献資料」(中国では「村落档案」と呼ばれ、村民の個人記録等を記載した「階級成分登記表」などが記載されている)が豊富に存在する山西省を中心として、研究代表者・研究分担者・連携研究者が、個別に調査してきた、河北省・山東省・河南省・江西省・湖北省・江蘇省・浙江省・福建省・四川省・遼寧省の農村を抽出し、比較検討することにより、近現代農村社会の変動を総合的に研究し、21世紀の中国社会の方向性を提示する。

3. 研究の方法

(1)従来の中国の環境ガバナンスに関する研究の多くは、都市における工業部門を中心としていた。本研究では、都市との経済的格差が拡大し、様々な社会問題を生成している農村部の社会環境に注目する。

(2)5年間を通して、「村落档案」と呼ばれる「中国語文献資料」が豊富に残存する山西省を中心として、都市近郊および遠郊農村の調査をする。既に予備調査が完了し、研究には未使用のまま残存していた大量の文献資料の存在を確認している山西省中部平遥県道備村を中心調査地として、地理的社会的構造の差異が当該地域の環境ガバナンスに及ぼす影響を与えているか検討する。併せて未使用の文献資料の目録を作成し、今後の利用のために主要部分を撮影して保存する。

(3)5年間を通しての部門研究チームと研究課題を以下のように設定する。

水利灌漑・土壌研究チーム A 水利灌漑システムと給水・排水関係、B 水源施設と水神信

仰、C 水利灌漑施設と農村工業、D 土壌改良と水質保全

農業生産・市場関係研究チーム E 農家経営における食糧生産と副業、F 都市近郊農村における野菜栽培と販売ルートの相関関係、G 中国での野菜栽培市場と有機農業経営

農村家族・社会関係研究チーム H 中国での「村民自治」論と日本の地方自治、I 中国での村内外における同族結合と地縁結合の関係、J 現代中国農村における人口抑制政策と女性の社会進出、K 現代中国農民の宗教活動と精神的世界観の変化、L 婚姻習慣から見た現代中国農民の生活感の変化

4. 研究成果

(1)山西大学中国社会史研究センターの協力のもとに、数万点に及ぶ平遥県道備村の「村落档案」と呼ばれる「中国語文献資料」の目録を作成した。またそのうちの中から主要資料を撮影し、データをメンバーの共有史料とした。

(2)主要調査地である平遥県道備村、および補助的調査地として水利灌漑研究では著名な山西省中部山間部の洪洞県と霍州市の交界地帯に存在する「四社五村」と呼ばれた村々のうちから義旺村・橋西村・橋東村、さらに戦前期日本の調査が実施された山西省中部の靈石県溝峪灘村で、村の古老や旧幹部を中心として数千名にインタビューを実施し、その一部は調査報告書として公表した。

(3)研究成果の一部を公益財団法人東洋文庫近代中国研究班との共催により、国際シンポジウム「近現代中国農村と村落档案史料」に山西大学および南開大学を中心とする中国人研究協力者たちを招聘して、2013年12月24日に東洋文庫で開催した。報告内容は以下のとおりである。

①郝平「国家の介入；集団化時代における田畑の水利に関する研究 山西省道備村を事例として」

胡英澤「土地改革前後の農村における土地所有権の変化についての研究 山西省の村落事案からの考察」

張俊峰「清代から民国期にいたる山西省の水利社会における公水と私水の交易 新発見の水契と水碑を中心に」

常利兵「政治と日常生活；1949年以後の中国農民の生活と組織化の問題 農村における会議記録簿の事案に基づいた研究」

馬維強「二面性；公共空間と内面世界が乖離した農村のキリスト教徒 集団化時代の平遥県双口村、道備村を中心にした考察」

⑥李嘎「20世紀農民の離農現象についての分析 華北の一農村の事案に関する考察」

陳鳳「山西省農村の伝統集団とその現状 段村を事例として」

湯可可「無錫農村の雇工、帮工と換工 胡埭馬鞍村の農民へのインタビュー記録か

ら」

江沛「華北農村における教師集団の状況に関する考察(1949年 - 1990年) 『20世紀華北農村調査記録』を中心として」

張思「大隊の帳簿類档案についての初歩的研究」

李金争「冀中定県からみた中国近代家庭手工業の存続」 毛来靈「華北農村調査 P 県D村の乳牛産業について」

山本真「復権と社会構造と革命、動員」

河野正「基層史料から見る階級政策と村落」

⑮郝平「集団化時代の農村基層档案資料の収集と整理について」

(4) 中国天津師範大学、華東師範大学および天津社会科学院から研究協力者3名を招聘して、研究成果による報告を中心に、2014年2月23日に東洋文庫にてワークショップを開催した。報告内容は以下のとおりである。

侯建新「民国時代の冀中における農村教育に関する研究」

張文明「労働と礼俗：女性が主導する上海社会構造 『産業調査』と『奉賢調査』の分析から」

張利民「近代華北集市(鎮)研究について」

(5) 中国河北大学および河北省档案馆から研究協力者3名を招聘して、研究成果による報告を中心に、2015年1月31日に東洋文庫にてワークショップを開催した。報告内容は以下のとおりである。

鄭清坡「20世紀以来の冀中定県での農村調査」

魏国棟「華北での民間宗教に関する調査 保定地区を例として」

③樊孝東「集団化時代の華北農村」

(6) 以上のようなシンポジウムやワークショップを通して、中国の環境ガバナンスを検討する際には、自然環境の変化による要因のみを検討するのではなく、むしろ社会環境という概念装置をフルに活用して考察すること、さらに中国農村社会に根強く存在する伝統社会の残滓ともいべき社会的要因にも留意しながら考察することの重要性がしばしば指摘された。そこで前述の課題を踏まえて、中国側研究協力者の参加も得て論文集『近現代中国農村における社会環境の変容』(課題)を執筆する準備を進めている。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計56件)

(1) 内山雅生、山西大学農村調査史料与日本の“地方文書”研究、山西大学中国社会史研究中心編『風華正茂』、査読有、2014年、122 - 129頁。

(2) 内山雅生・祁建民、中国内陸農村訪問調査報告(5) 長崎県立大学国際情報学部紀要15号、2015年、185 - 195頁。

(3) 内山雅生、近代中国農村社会特性：“共同体”与“共同性”、『中国社会科学報』585期、査読有、2014年、6頁。

(4) 弁納才一、中華民国新民会による刊行物と華北農村調査の特徴について、近現代資料刊行会編『中国占領地の社会調査』2期、2014年、33 - 56頁。

(5) 弁納才一、近現代北京市近郊農村における経済発展と都市化、大阪経済大学編『経済史研究』18号、査読有、2015年、63 - 90頁。

(6) 弁納才一、華北農村訪問調査報告 2014年8月、山西省の場合、『金沢大学経済論集』35巻1号、2015年、149 - 168頁。

(7) 田中比呂志、清末における国民形成のゆくえ、孫江・劉建輝編『東アジアにおける近代知の空間の形成』、査読有、2014年、399 - 428頁。

(8) 田中比呂志、研究と教科書の間、東京学芸大学編『史海』61号、2014年、36 - 43頁。

(9) 田原史起、中国の都市化政策と県域社会「多極化」への道程、東京大学総合文化研究科編『ODYSSEUS』19号、2015年、29 - 48頁。

(10) 祁建民、八復渠水与古代「均水」理念、『中国社会歴史評論』15巻、査読有、2014年、92 - 106頁。

(11) 祁建民、中国和日本的鄉村治理比較、『国家治理』13期、査読有、2014年、19 - 28頁。

(12) 祁建民、戦後日本対華観念的変遷与「共同体」理論、『抗日戦争研究』2014年2期、査読有、2014年、123 - 139頁。

(13) 祁建民、戦前日本の中国観与「共同体」理論、『抗日戦争研究』2014年3期、査読有、2014年、146 - 157頁。

(14) 祁建民、日本の蒙疆経済政策：從防共基地到資源基地、『内蒙古師範大学学报』2014年5期、査読有、2014年、113 - 122頁。

(15) 小島泰雄、前郭灌区の水田開発、『地域と環境』13号、2014年、1 - 14頁。

(16) 山本真、20世紀前半、福建省福州、興化地区から東南アジアへの移民とその社会的背景、『21世紀東アジア社会学』2014年3期、査読有、2014年、31 - 47頁。

(17) 山本真、東マレーシア・サラワク華人社会と日中戦争・太平洋戦争、『中国研究月報』68巻5号、査読有、2014年、38 - 49頁。

(18) 山本真、晏陽初と陶行知 平民教育から農村改良へ、講座『東アジアの知識人 4 戦争と向き合っ』、査読有、2014年、66 - 83頁。

(19) 阿古智子、高まる社会的緊張、『シリーズ日本の安全保障、チャイナ・リスク』、査読有、2015年、231 - 257頁。

(20) 内山雅生、農村から見る現代中国社会

の変動、大阪経済大学編『経済史研究』17号、査読有、2013年、1-21頁。

(21) 内山雅生、戦時期日本の中国農村研究と華北、本庄比佐子・内山雅生・久保亨編『華北の発見』(公財)東洋文庫、2013年、177-200頁。

(22) 弁納才一、農業生産から見た華北農村経済の特質、前掲『華北の発見』、2013年、227-249頁。

(23) 弁納才一、中華民国前期冀東地区における農村経済の概況、『金沢大学経済論集』34巻1号、2013年、59-86頁。

(24) 田中比呂志、戦時期華北在住日本人の華北認識、前掲『華北の発見』、2013年、123-147頁。

(25) 田中比呂志、集体化時代中国農村社会的家族：山西省L市G村社区宗族結合的展開、山西大学中国社会史研究中心編『社会史研究』3輯、査読有、2013年、136-150頁。

(26) 祁建民、從民主社会主義論争看当代中国社会思想的變遷、『長崎県立大学国際情報学部研究紀要』14号、2013年、227-237頁。

(27) 田原史起、“選択性”当代中国社区建設的新機制、『東京大学大学院総合文化研究科地域文化研究専攻紀要』18巻、2014年、71-81頁。

(28) Kimitaka MATSUZATO, Fumiki TAHARA, Russia's Local Reform of 2003 from a Historical Perspective: A Comparison with China, Acta Slavica Iaponica, 34, 2014, pp115-139.

(29) 山本真、20世紀初頭の福建南西部客家社会と革命運動、『歴史評論』765号、査読有、2014年、47-57頁。

(30) 阿古智子、格差社会のマグマ、『週刊エコノミスト』2013年6月18日号、2013年、34-35頁。

(31) 首藤明和、費孝通、『社会と調査』12巻、2014年、104-120頁。

(32) 弁納才一、華北農村訪問調査報告(7) 2012年8月、山西省の場合、『金沢大学経済論集』33巻1号、2012年、289-307頁。

(33) 弁納才一、近現代中国農村経済史分析のための新たな枠組みと発展モデルの提示、『金沢大学経済論集』33巻2号、2012年、103-120頁。

(34) 田中比呂志、「辛亥百」現象を考える、『歴史学研究』892号、2012年、26-31頁。

(35) 田中比呂志、華北農村訪問調査報告(3) 2011年8月山西省P県D村、『東京学芸大学紀要人文社会科学』64集、2013年、53-60頁。

(36) 祁建民、中共資本主義觀的形成及演变、『東亜漢学研究』2号、査読有、2012年、250-260頁。

(37) 祁建民、高級合作社の成立から見る中国低層部における国家権力、『東アジア評論』5号、査読有、2013年、1-18頁。

(38) TAHARA Fumiki, Principal, Agent or Bystander? Governance and Leadership in

Chinese and Russian Villages, Europe-Asia studies 65-1, 2013, pp75-101.

(39) 小島泰雄、中国山西における農村集落の大規模性について、『地域と環境』12号、2012年、89-94頁。

(40) 小島泰雄、トウモロコシとカン、『人環フォーラム』32号、2013年、22-25頁。

(41) 首藤明和、回族の宗教実践と「中国」、『社会学雑誌』29号、2012年、66-85頁。

(42) 首藤明和、ハイブリッドモダンの日中比較研究序説、『日中社会学研究』20号、査読有、2012年、9-20頁。

(43) 佐藤仁史、民国時期江南の廟会組織と村落社会、『中国社会歴史評論』13号、査読有、2012年、128-142頁。

(44) 山本真、戦時下の四川社会と中国革命、『中国研究月報』67巻1号、査読有、2013年、27-37頁。

(45) 内山雅生、現代中国における公共的關係、柳沢遥編『アジア・中東 共同体・環境・現代の貧困』、査読有、2012年、37-57頁。

(46) 内山雅生・三谷孝・祁建民、中国内陸農村調査報告(2)、『長崎県立大学国際情報学部研究紀要』12号、2011年、219-238頁。

(47) 弁納才一、華北農村訪問調査報告(3)、『日本海域研究』42号、査読有、2011年、113-121頁。

(48) 弁納才一、中華民国前期山東省における食糧事情の構造的把握、『金沢大学経済論集』31巻2号、2011年、103-131頁。

(49) 弁納才一、民国期中国の農村経済史、『近きに在りて』59号、査読有、2011年、67-76頁。

(50) 弁納才一、華北総合調査研究所の刊行物について、『近代中国研究彙報』34号、査読有、2012年、103-132頁。

(51) 田中比呂志、華北農村訪問調査報告(2)、『東京学芸大学紀要人文社会科学』63号、2012年、113-140頁。

(52) 祁建民、中国農村における職能的社会結合と権力、『長崎県立大学国際情報学部研究紀要』12号、2011年、239-252頁。

(53) 首藤明和、東日本大震災とその後、『日中社会学研究』19号、査読有、2012年、1-12頁。

(54) 内山雅生、発展中の現代中国農村社会史研究、『山西大学学报哲学社会科学版』33巻3期、査読有、2010年、143-144頁。

(55) 内山雅生・三谷孝・祁建民、中国内陸農村訪問調査報告(1)、『長崎県立大学国際情報学部研究紀要』11巻、2010年、325-330頁。

(56) 弁納才一、日中戦争期山東省における食糧事情と農村経済構造の変容、『東洋学報』92巻、査読有、2010年、31-60頁。

〔学会発表〕(計22件)

(1) 田原史起、“發家致富”与打工經濟：探討21世紀中国農民的精神、紅河論壇、招待講演、2014年11月26日、中国雲南省昆明市

紅河学院。

(2) 小島泰雄、いま日本で中国東北を考えると 吉林省松原市の農村開発を例として、日本地理学会秋季学術大会、2014年9月21日、富山大学。

(3) 阿古智子、中国と日本 国境を越えた公共圏の形成を展望する、日本教育学会、招待講演、2014年8月23日、九州大学。

(4) 阿古智子、中国の公共圏をめぐる問題、国際政治学会、招待講演、2014年11月16日、福岡国際会議場。

(5) 山本真、1930 - 40年代、在福建省の国民政府之統治与地域社会、明清以来的地方意識与国家認同学術研討会、招待講演、2015年3月28日、(中国)華東師範大学。

(6) 内山雅生、日本・インドの土地改革から見た中国の土地改革、土地改革与中国鄉村社会学術研討会、招待講演、2013年8月10日、(中国)山西大学中国社会史研究センター。

(7) 祁建民、山陝地区土地改革の水利民主改革、招待講演、2013年8月10日、(中国)山西大学中国社会史研究中心。

(8) 小島泰雄、Continuities and discontinuities of spatial organizations in rural China, IGU Kyoto Regional conference, 2013年8月7日、2013年、京都国際会議場。

(9) Fumiki TAHARA, Doing Fieldwork in Chinese and Russian Villages, Public seminar, Institute of Mass Communications and Social Studies, 2013.9.5, Kazan Federal University, Kazan, Russia.

(10) 山本真、中日戦争時期的福建戦時体制、糧食管理与家近淦、嚴家淦先生与台湾經濟發展国際学術討論会、招待講演、2013年12月16日、(台湾)国史館。

(11) 阿古智子、“新型城鎮化”能打破城鄉關係、新型城鎮化与城鄉關係学術討論会、招待講演、2013年7月25日、(中国)中山大学。

(12) 田中比呂志、清末民初の中国における「民族」概念の消長、国際日本文化研究センター第44回国際研究集会、2012年11月15日、国際日本文化研究センター。

(13) 田原史起、中国農村へのアプローチ、関西学院大学先端社会研究所、招待講演、2013年2月15日、関西学院大学。

(14) 小島泰雄、大豆コーリャンからトウモロコシへ、日本地理学会2013年春季学術大会、2013年3月29日、立正大学。

(15) 首藤明和、ハイブリッドモダンと日中比較、日中社会学会、2012年6月2日、立命館大学。

(16) 首藤明和、中国「回族」研究の課題と展望、日中社会学会、2012年9月15日、名古屋大学。

(17) 首藤明和、在村的潮流からみる明治期日本のハイブリッドモダンの生成と展開、長崎大学重点研究課題「東アジア共生プロジェクト」招待講演、2013年2月22日、長崎大学。

(18) 田中比呂志、近年来日本の中国区域社会

史研究、第2期山西区域社会史国際学術研討会、2011年8月8日、(中国)山西省永濟市。

(19) 祁建民、農民是如何参与四清運動的、第2期山西区域社会史国際学術研討会、2011年8月8日、(中国)山西省永濟市。

(20) 首藤明和、東日本大震災とその後、災害・復興・防災の日中比較を通じた新しい社会の模索、国際交流基金知的交流会議助成プログラム、2012年2月18日、東北学院大学。

(21) 祁建民、近現代華北農村中的宗族与村政、東亜漢学研究会、2011年6月7日、(中国)陝西師範大学漢学学院。

(22) 佐藤仁史、從民間信仰看近代江南和華北の農村社会：以香頭・会首為中心、太湖流域市鎮与鄉村聚落歴史学術研討会、2011年1月9日、(中国)浙江省湖州荻港村荻港魚莊。

〔図書〕(計14件)

(1) 阿古智子、貧者を喰らう国(増補改訂版)、新潮社、2014年、255頁。

(2) 本庄比佐子・内山雅生・久保亨、華北の発見、(公財)東洋文庫、2013年、355頁。

(3) 小島泰雄、中国東北における地域構造変化の地理学的研究 長春調査報告、京大大学人間・環境学研究科地域空間分野、2013年、67頁。

(4) 田原史起、日本視野中的中国農村精英：關係、団結、三農政治、山東人民出版社、2012年、247頁。

(5) 祁建民、中国共産党与資本主義、人間出版社(台北)、2012年、423頁。

(6) 金野純、上海 都市生活者の現代史、風響社、2012年、350頁。

(7) 佐藤仁史、近代中国の郷土意識 清末民初江南の在地指導者層と地域社会、研文出版、2013年、445頁。

(8) 内山雅生・三谷孝・弁納才一・田中比呂志・祁建民・山本真・金野純・田原史起、中国内陸における農村変革と地域社会、御茶の水書房、2011年、270頁。

(9) 山本真、近代中国の地域像、山川出版社、2011年、(分担)197 - 237頁。

(10) 小島泰雄、世界地誌シリーズ2 中国、朝倉書房、2011年、(分担)136 - 147頁。

(11) 小島泰雄、西北中国はいま、ナカニシヤ出版、2011年、(分担)177 - 185頁。

(12) 小島泰雄、二十世紀的中国社会、(北京)社会科学文献出版社、2011年、(分担)377 - 395頁。

(13) 高田幸男・大沢肇・田中比呂志・佐藤仁史、新史料からみる中国現代史 口述・電子化・地方文献、東方書店、2010年、368頁。

(14) 勝部真人・弁納才一、近代東アジアにおける外来と在来、清文堂、2011年、284頁。

6. 研究組織

(1) 研究代表者

内山 雅生 (UCHIYAMA Masao) 宇都宮大学国際学部特任教授

研究者番号：30151905

(2)研究分担者

弁納 才一 (BENNOU Saiichi) 金沢大学
経済学経営学系教授
研究者番号：9027939

田中 比呂志 (TANAKA Hiroshi) 東京学芸大学
教育学部教授
研究者番号：90269572

(3)連携研究者

三谷 孝 (MITANI Takashi) 一橋大学名誉教
授(故人)
研究者番号：40126371

祁 建民 (KI Kenmin) 長崎県立大学国際情
報学部教授
研究者番号：7044881

田原 史起 (TAHARA Fumiki) 東京大学大学
院総合文化研究科准教授
研究者番号：20308563

山本 真 (YAMAMOTO Shin) 筑波大学大学院
人文社会科学研究科准教授
研究者番号：20316681

小島 泰雄 (KOJIMA Yasuo) 京都大学大学院
人間・環境学研究科教授
研究者番号：80234764

太田 出 (OOTA Yuzuru) 広島大学大学院文
学研究科准教授
研究者番号：10314337

佐藤 仁史 (SATO Yoshifumi) 一橋大学大学
院社会学研究科教授
研究者番号：60335156

首藤 明和 (SYUDO Toshikazu) 長崎大学多
文化社会学部教授
研究者番号：60346294

阿古 智子 (AKO Tomoko) 東京大学大学院総
合文化研究科准教授
研究者番号：80388842

金野 純 (KONNO Zyun) 学習院女子大学国際
文化交流学部准教授
研究者番号：80553982